鳥ではなくて鳩は鳩、鶴は鶴

たいていの人が、鳩でも鶴でも「鳥」と教え、金魚でも鯉でも「魚」と教えます。しかし、鳩は鳩、鶴は鶴と教えるべきだと思います。「鳥」という言葉は、鳩や鶴が分かった後にそれを統合する言葉として教えるべきです。そうでないと、「鳥」や「魚」という言葉を、正しく理解させることができないからです。

一般に幼児は、実在に即した具象的な言葉をそのまま受け入れることができますが、実在でない抽象的な言葉は、具象的な実在に結びつけない限り、理解することができません。たとえば、「お母さん」という言葉は、最初は実在である自分の母親を表す言葉としてしか理解できません。「友子さんのお母さん」と言えば、「それはお母さんじゃない、お母さんはこれ」と言って、自分の母親を指さします。

そういう幼児ですから、抽象的な「鳥」よりも、実在である「鳩」「鶴」の方が理解し易いのです。

漢字でも、矢張り、「鳩」「鶴」というような字から教えると容易に覚えます。これらの漢字は、三歳以後なら、どんな字でも必ず理解して読むようになります。学習の難易は、字画には関係ありません。

絵本で鳩や鶴の絵の処に、これらの漢字を書きいれておけば、子どもたちはすぐ覚えてしまいます。

「鳥」というような字は、その共通点に気づいて、「鳩と鶴には同じものがあるね」と言うようになった時に、①それがトリという字であること、②トリとは、鳩や鶴のように、翼があり、羽毛があり、足が二本の動物の総称であること、などを教えてやります。